

「平成 25 年慶北大学校夏休み短期文化研修参加報告書」

京都大学法学部 2 年 杉田 都乃 (女)

今回、この文化研修に参加させていただいて、私は本当に多くのことを学び、考えさせられました。もともと K-POP などを通じて韓国に興味を持ち、そこで日韓の溝を目の当たりにしてからずっと、私の国と、私の好きな友達やアーティストの国である韓国との距離がどれほどなのか、自分の目で見て、実際に話して考えてみたいと願ってきました。今回のプログラムで得たものは、その期待をはるかに超えるものであったと思います。

まず、プログラム内容に関してですが、期待していた企業訪問がなくなったことはとても残念でしたが、韓国の民族衣装を着たり、伝統工芸にふれたりする機会が持てたことは本当によかったと思っています。自分の国と同じように歴史があり、違う特色をもちながらも限りなく似ているということを痛感できました。

しかし、プログラムの内容以上に私が有意義だったと思うのはバディさんや、現地の人々との交流です。バディさんたちはみなさほど年の変わらない人ばかりでたくさんの楽しい思い出を作ることができ、なにより彼らの将来の考え方や今の学習への取り組みなど、たくさんの刺激を受けることができました。私が今回の研修中の出来事で特に印象に残っているのは、たまたま乗ったタクシーの運転手の方との会話です。その方は私にいきなり、「慰安婦問題を悪いと思っているか」と尋ねてこられました。悪いことは悪いと認めるべきだとおっしゃるその方に、私は、総理のような立場の人が正式に謝罪するのは別の話で難しいのかもしれないが、日本人みんなが悪いと思っていないわけではないはずだと言いました。つたない韓国語でうまく伝えられたかはわかりませんが、悪いと思っている人はたくさんいるということは覚えていてほしいと言った私に、その方は、弟が日本に住んでいるから日本は嫌いではない、こうやって話すことが大事なだろうと言ってくださいました。本当にその通りだと、私も思いました。数分の出来事でしたが、私にとっては一生忘れられない出来事です。

私は今回のプログラムで得た一番のものは、バディさんたちとの繋がりだと思っています。様々な楽しいことを一緒にして、将来のことや趣味について話して、そうやって得ることができた私たちの関係に、お互いの国籍も日韓の政治問題も関係ないのだということを痛感することができました。一人の人間として、バディさんたちと友人関係を築くことができたことを幸せに思うし、また、そういった人間としての関係を大事にして広げていくことで、いつか国同士の関係も良いものに変われればと思っています。私は将来法曹界に進みたいと思っていますが、韓国語を勉強し始めたときから、韓国と関わる何かがしたいとも思ってきました。その二つをどう両立させたいのかはまだ分かりませんが、韓国には、今度は長期で留学してみたいと思うようになりました。長い時間の軋轢と溝を超えて、私たちの世代からは、日韓がより近い国になるようにしていけたらいいなと思っています。